

旅行取扱状況の概観 [2013年（平成25年）1月分]

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト(KNT)とKNT個人旅行、KNT個人旅行販売、クラブツーリズム、KNT北海道、KNT東北、KNT中国四国、KNT九州、ユナイテッドツアーズ、KNT商事、KNTアジア、の合算額となります。

記

海外旅行の取り扱い、一般団体は前年比80.2%と前年を下回り、学生団体も同98.9%と前年を僅かに下回った結果、団体旅行合計で前年比83.3%と振るわなかった。企画旅行については、前年比128.1%と大きく伸長した。個人旅行については、前年比95.4%であった。この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比112.3%と前年を大幅に上回る結果となった。

国内旅行の取り扱い、一般団体が前年比98.1%、学生団体が同79.7%、団体旅行合計で前年比86.3%と、前年を下回った。企画旅行については前年を116.1%と大きく上回った。個人旅行については、前年比87.5%であった。この結果、国内旅行総取扱額としては、前年比103.7%と前年を上回る結果となった。

外国人旅行は中国方面からの訪日旅行者の減少が続いており、前年比88.6%であった。

以上の結果、ホールディングス主要会社の1月の総取扱額は前年比107.6%と、前年を大きく上回る結果となった。

【主要会社の状況】

1. 近畿日本ツーリスト株式会社

海外団体については、一般団体は昨年多くの招待旅行や業務渡航を取扱ったこともあり、前年比78.3%と前年を下回った。学生団体は、同98.9%とほぼ前年と同水準であった。

国内団体については、一般団体は前年比98.1%とほぼ前年と同水準であったが、学生団体は修学旅行取り扱い件数の減少により79.7%と前年を下回った。

2. 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社

メイトは、取扱人数は前年を僅かに下回ったものの、総取扱額は前年比106.6%と前年を上回った。方面別取扱人数の状況では、東北、中国四国、伊勢・志摩、南紀、首都圏方面などが前年より伸長した。

ホリデイは、取扱人数は前年を下回ったものの、米本土やヨーロッパ等のロング商品が好調であり、総取扱額は前年比139.5%と前年を大きく上回った。しかしながら東アジアにおける領土問題の影響は継続しており、中国・台湾方面については引き続き低迷している。

3. クラブツーリズム株式会社

海外旅行部門は年末年始のヨーロッパ方面をはじめとして好調に推移し、前年実績を上回った。主な要因は①年末年始が好調に推移、②エジプトの回復、③SITの牽引等が挙げられる。

国内旅行部門は全体的に売上が鈍化したが、売上高前年比は102%と前年を上回った。年末年始も売上高前年比106%と好調であった。

バス旅行部門は、筐子トンネル事故の影響などにより、12月上旬を境に販売が鈍化したため、売上高で前年を下回る結果となった。テーマ旅行部門は好調に推移し、売上高で前年比119%となった。